

令和4年度南薩保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について

日 時：令和5年3月23日（木） 午後6時30分から午後8時

場 所：南九州市市民交流センター ひまわり館

出席者：17名（代理出席3名を含む）、1名欠席

内 容

1 開会

2 報告及び協議

- (1) 鹿児島県地域医療構想調整会議の開催結果について
 - ・ 定量的基準（令和4年10月17日の改訂）について
 - ・ 地域医療構想に関する国の動向について
- (2) 外来機能報告制度・紹介重点医療機関について
 - ・ 外来機能報告制度に係る外来機能報告について
- (3) 地域の医療提供体制に影響を与える具体的対応方針の変更について
- (4) 地域医療に影響を与える申請について
- (5) 病床機能報告の結果について

3 その他

今後の南薩保健医療圏地域医療構想調整会議の進め方について

4 協議結果

(1) 協議事項

(地域の医療提供体制に影響を与える具体的対応方針の変更について)

- ・ 新薩南病院の新築移転に伴う運用病床の変更，公立病院経営強化プラン（県立病院第三次中期事業報計画）については異議なく合意

【合意内容】

新薩南病院においては，許可病床を160床とし，一般病床136床，結核10床，感染症4床で運用予定。

(地域医療体制に影響を与える申請について)

- ・ 地域医療支援病院である県立薩南病院の移転に伴う開設は適当であるかについては異議なく合意

【合意内容】

地域医療支援病院である県立薩南病院の移転に伴う開設は，適当である。

(病床機能報告の結果について)

- ・ 令和3年度の病床機能報告及び定量的基準との照合結果により，一致しない医療機関について，令和5年度の病床機能報告の際に検討してもらうことについては異議なく合意

【合意内容】

令和3年度病床機能報告と定量的基準との照合結果により一致しない医療機関については，令和5年度の病床機能報告の際に検討してもらうことは適当である。

(2) 意見

- ・ 南薩保健医療圏において，高度急性期病床は現在4床であるが，2025年の県の地域医療構想の必要数は69床となっている。必要な方の殆どが他の保健医療圏に流出した結果，この病床で足りているということなのか，急性期病床で高度急性期対応をしているのか。
- ・ 高度急性期を維持していくための専門医や看護スタッフを揃えるには，マンパワー的にも経営的にも現実的に難しい。HCUはないが，急性期病棟でHCU的な高度救急を行っている。
- ・ 心臓カテーテルを実施していることから，CCUとしての機能を果たしているが，

要件を満たさない為、高度急性期として申請できない現状がある。

- 南薩地域では、医師や看護師のマンパワー不足。若い医師や看護師は都会に出て行く現状があり、南薩地区は益々医療の貧困が増えていく。看護師不足による病棟閉鎖も想定される。
- 持続可能な医療体制を維持するために本会議があり、田舎も含めて地域で医療を維持するために、医療スタッフを揃えなければならない、医師の確保ができれば、病院の発展にも繋がる。公的医療機関だけでなく、いろいろな医療機関も切望している。
- 医療従事者の地域の出身者を育てる、リクルートの情報について情報共有をしてもらいたい。地元にはかに医療従事者を呼ぶか、地域の医療を守るという視点で、総論的なところもどうにかしたい。
- 紹介率について、小児科や産婦人科は紹介状なしの飛び込みが多いことから、紹介率から除外した数値も算出している。
- 介護分野では、事業所の閉鎖はスタッフの高齢化等がある。ヘルパーの育成が課題。人の育成には時間がかかる。在宅でとなつても、往診してくれる医師、訪問看護師がいない。3～4日でも帰りたいという人に対応できない状況もある。
- 慢性期も危惧するところ。高齢者をどのように迎え入れればよいのか。「100歳まで生かして」と言われる。医療と人生の関係もあり難しい。